

平成29年度が始まりました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。  
ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all. No.65

**\*エイリョウ・アラカルト 「LCCの皆さんは今年も頑張っています！」**



研究熱心なライフクリエイティブクラブの皆さんが、できたてのピザを校長室まで運んでくれました。なんと今回は手作りプリン付きです。

ピザは焼きたてでまだ湯気が上っています。カルパスや夏野菜のトッピングの上にとろけるチーズがたっぷり、生地も外側がカリカリ、中がふわふわと絶妙です。

サイドにはこれまたできたてのプリン。焼き上げの熱いプリンは初めてですが、口当たりといい、濃厚さといい、まさに高級プリンでした。

グルメレポートみたくなりましたが、お世辞抜きに本当に素晴らしいです。ライフクリエイティブクラブ（略称LCC）の皆さんご馳走様でした！

All for one, and one for all. No.66

**H29. 8. 6 「北大キャンパスツアーに行ってきました」**

キャリア教育を推進する上で大切なことは、生徒自身の意欲の向上です。上級学校という知らない世界を直に見ることで、未知なる可能性を肌で感じる事が可能になります。それは、その後の高校生活のあり方や学習意欲にも大きく影響します。



大学見学や講義体験を主とするキャリアプロジェクトを起ち上げ、今年度から新たな企画を実践しています。今回の北大キャンパスツアーもその一つです。

大学キャンパスの上辺だけでなく、講義体験、学部説明、学食等とあらゆる場所を見聞してきました。

早くから進路を考えてもらうため、2年次生だけでなく、1年次生にも募集をかけました。第1回目ということで改善すべき事項も出てきましたが、何より参加生徒が声をそろえて有意義な時間だったという感想を持ってくれたことは大きな収穫です。

今後は希望者が増えることになると思います。私も一層の内容の充実に努めてまいりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。9月には教育大も予定しています。



All for one, and one for all. No.67

**H29. 8. 9 「韓国水原（スウォン）市高校生との交流事業」**

本校では、異文化を身近に体感する機会を増やすために、昨年より国際理解、国際交流、

国際貢献に関わる取組を推進しています。今回は韓国水原市の高校生約40名との交流事業を実施しました。彼らは日本語を学ぶために東川町に短期留学に来ている生徒の皆さんです。

異文化交流ということもあり、本校では日本の文化を沢山知ってもらおう企画を準備しました。弓道、茶道、芸術、LCCなど、日本固有の文化に携わる生徒に数多く参加してもらい、グループごとに分かれて交流を深め合いました。



紹介や会話は英語と日本語の両方を使って行いましたが、今回の留学生は皆日本語が堪能なのに驚きました。話を聞くと、アニメの影響もあるとかで、それがきっかけで日本や日本語に関心を持つようになった生徒さんもあるとのことでした。

グローバルな時代にあって、世界を知ることはこれからの若者には必須事項です。「互いにどのような高校生活を送っているのか」、「未来についてどう考えているのか」、さらには「風習や文化の違いは」など、視野を広げるだけでなく、互いを尊重し合う豊かな心をも育んでいきます。



若者同士の交流の深化は私たちが想像している以上に早く、自然と会話も弾み、わずか2時間程度の交流の中で分かれを惜しむまでになっていました。

異国であっても、互いに相手の気持ちを思いやり、心を通わせようとする純粋な高校生の姿は本当に素晴らしいです。



今後も様々な交流を通して、異文化理解を深めるための企画をし、生徒たちが大きく成長してくれることにつなげていきたいと考えています。

**All for one, and one for all. No.68**

### **\*エイリョウ・アラカルト 「青少年エッセイコンクール」**

昨年の「第五回井上靖記念館青少年エッセイコンクール 高校生の部」で、当時1年次生であった 山田 颯太君の作品が、井上靖ナナカマドの会の機関誌に掲載されました。

題名は『先生の名は失敗』、何とも興味をそそります。

山田君にとって、「先生」は必ずしも人だけではなく、自らの体験が時に大切なことを教えてくれる偉大な先生となることもあるということです。これまで経験した2度の大きな失敗が、自らを省みるきっかけとなり、自分を成長させてくれたことを綴っています。



『毎日の出来事が自分を創る。だからこそ一分一秒もおろそかに出来ない。たとえ小さな失敗であっても、それを意識することで人は成長する。』（本文概要）

自分の周りに先生がたくさんいることを、年老いた私自身も改めて痛感しました。このエッセイが一人でも多くの人の目にとまり共感してくれることを願います。そして、今年も、旭川永嶺からエッセイコンクール受賞作品が出てくれることを期待したいです！

(※全文はホームページに掲載)

All for one, and one for all. No.69

#### \*エイリョウ・アラカルト 「全国高校総体で大健闘！」

17、18日両日、宮城県で開催された水泳競技で、3年生の高橋 美来さんが400メートル自由形で7位入賞、200メートル自由形でも8位入賞の大健闘を見せてくれました。全国大会に出場するだけでも大変なことですが、昨年に引き続いての入賞に心から敬意を表します。



今後も水泳というスポーツを友とし続けて欲しいですし、この競技を通して学んだ数多くの教訓をこれからの人生に生かしてくれることを願っています。

高橋さんの努力と成果は、他の部活動の目標となり、大きな勇気を与えてくれました。すべての生徒の今後の活躍に期待したいです！

All for one, and one for all. No.70

#### \*エイリョウ・アラカルト 「見事な大輪」

職員玄関に「ダリア」の見事な大輪が生けられました。本校の職員がご家庭で大切に育てられているダリアを、毎年この時期に職員玄関にも飾ってくれます。

私たちはもちろん、来校される方々の心を癒やしてくれるとても奥深い美しさです。このような気配りが多くの人々の心に響き、幸せな気持ちにさせてくれます。とても有り難いことです。



All for one, and one for all. No.71

#### H29. 8. 21 「推薦受験説明会」

3年生を対象に「推薦受験説明会」を開催しました。推薦には様々な条件が課せられますが、なにより本人の志望校に進みたいという強い意志がなければなりません。



昨今は受験制度も複雑化し、一般入試以外にも指定校推薦、公募推薦、AOなど様々な態様があります。受験生に、その仕組みをしっかりと理解した上で、今後の取組に専念してもらうことがねらいです。

進学者はこの夏休みを境に一気に受験モードに突入します。仲間と励まし合い、この試練をがむしゃらに乗り切り、笑顔で本校を羽ばたいていて欲しいものです。

## H29. 8.23～25 「全国高等学校PTA連合会大会」

今年の高P連全国大会は、『「有徳の人」づくり～未来のために行動する「一人」を育てよう～』をテーマに、静岡を会場に開催されました。

本校PTAからも、大変お忙しい中、3名の役員の皆様が本大会に参加してくれました。

気温36度と、意識もやや朦朧となりましたが、地元の高校生の皆さんの素晴らしい出迎えのパフォーマンスに、リフレッシュな気分をすっかり取り戻しました。



全体講演では、「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」と題し、著名な武将を輩出した静岡ならではの大変興味深いお話を聞くことができました。当時の「遺言」は現在のものと違い、どうすれば政権を維持していけるかといった、いわばバイブル的役割を持っていたようです。徳川家が長く続いた背景にも、次世代に引き継がれた教訓があったのでしょうか。

続く分科会では、「防災・減災教育の推進」について各地の取組を聞かせていただきました。本校でも地震災害に備えた避難訓練を実施していますが、指示どおりに動くこと以上に、「自らが自らの命を守る」意識の醸成が重要とのことでした。また、学校が地域の中心となり、周辺へのネットワークを広げていくことも必要とのことでした。



最終日の記念講演は、俳優の 寛 利夫さんによるトークショー。「これがオレの生きざまだ!」と題して、中学・高校時代のエピソードから俳優に至るまでの道のり、保護者への鋭いメッセージなど、会場を大いに沸かせてくれました。

今回の会場は静岡市だけでなく、掛川、愛野、浜松と広範囲にわたって会場が設けられており、移動方々、そこに伝わる歴史的建造物や文化に触れることができました。

特に今は大河ドラマ「井伊直虎」ブーム。当時を忍ぶ言い伝えや関わった武将たちの名をいたるところで聞くことができました。私たちも休憩時間に駿府城跡を散策、夜は静岡名産に舌鼓をうちながら、有意義な3日間を過ごしてきました。



唯一残念だったのは、富士山の輪郭がぼやけていたことです。暑さで空気が淀むからだそうです。

今回参加していただきました堀江様、工藤様、尾池様、本当にお疲れ様でした！

## \*エイリョウ・アラカルト 「今年度の留学生はアメリカ出身の16歳」

A F Sから留学生がやってきました。A F S（日本協会）とは、「公正で平和な世界の実現に必要な知識、能力、理解力を身につけることを目的に、高校生に異文化と接する機会を提供している非営利団体」の名称です。



本校では国際交流を推進しており、今年度も留学生の受け入れを行いました。今回来校したのは、アメリカ・ニューハンプシャー州出身のアレックス君です。来年2月上旬まで本校で「日本」について様々なことを学びます。

日本には幼い頃から関心があったとのことで、数年前から日本語を勉強していたそうですが、初来日とは思えないほど日本語が堪能なのに驚きました。さらに、大学卒業後は日本の仕事に就きたいとまで思っているほどの親日家です。趣味・特技も映画、スキー、バイオリンと多才で、言動にも思慮深さが伺える好青年です。

今後は2年次に在籍し、多くのクラスの英語授業や放課後の部活動に参加する予定です。本校生徒には積極的にコミュニケーションを図る中で、語学や異文化に対して良い刺激を多くもらうことを期待したいです。

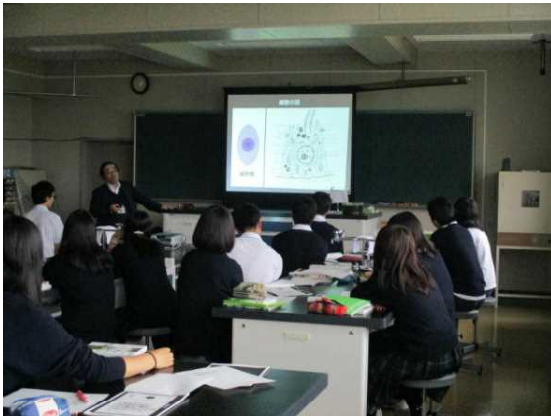


**All for one, and one for all. No.74**

#### **H29. 8.29 「高大生物連携」**

本校の特色の一つでもある「高大連携」、今回は高大教科連携についてご紹介します。

旭川医科大学の協力を得て「生物α」選択者53名を対象に、大学の講義や実習の受講機会を設け、生物に対する興味関心を高めるとともに、科学的思考力を培い、さらには将来の具体的な職業観がイメージできるようになることを目的に行っている取組があります。



これは、大学見学や模擬講義に加え、高校ではなかなか手にすることの出来ない電子顕微鏡や共焦点レーザー顕微鏡を用いた大学ならではの实習体験や生命に対するより高度な学習内容の理解を通して、視野を大きく広げることがねらいです。

また、考察、レポート、討議、発表とアクティブ・ラーニング的手法により、より深い学びを体得できるよう授業計画が作成されています。

初日の今日は、旭川医科大学 平 義樹准教授にご来校いただき、「顕微鏡で見る生命のかたち」と題した講義を拝聴しました。生徒たちは、高校とは全く異なる講義内容に興味津々、誰もが真剣に耳を傾けていました。次回はワークショップ形式の授業です。

**All for one, and one for all. No.75**

#### **H29. 8.30 「北海道みんなの日に因み『講演会』を実施」**

ご承知のように、今年3月、道から「7月17日を『北海道みんなの日（道みんなの日）』」とする条例が公布されました。

この条例は、「道民が、北海道のこれまでの歴史や自然、文化、産業等についての理解

と関心を深め、北海道の価値を改めて認識し、道民であることを誇りに思う心を育むことにより、道民が一体となってより豊かな北海道を築いていくこと」を趣旨としています。

本校の学校教育目標にも「郷土を愛する」という文言が盛り込まれていますが、やはり生まれ育った地はいつまでも大切にしていきたいものです。

講演では地元「旭川」について理解を深めてもらうため、旭川大学から 江口 尚文教授をお招きし、「旭川の歴史と産業生成」についてご講演をいただきました。

人物と地名、自然環境と産業、開墾と集落等々、様々な環境や条件、出来事などが複雑に関係し合い、旭川が形成されていくというお話に大変興味を持ちました。

私たちは、とかく上辺だけで物事を判断しがちですが、こうした歴史の深さを理解することで、郷土への愛情がより深まっていくことを実感する一日となりました。



All for one, and one for all. No.76

#### \*エイリョウ・アラカルト 「文化系も各大会で大活躍！」

高体連・高野連に引き続き、高文連でも本校生徒が大活躍です。写真部門では、29日



に開かれた審査会で、最高賞である最優秀賞に1年次生の 山形 優真さんの「Rainy day」(左)が選ばれました。上川・留萌管内15校590点の作品の頂点に輝く快挙です。また、2年次生の 大澤 賢恭君が銅賞(ベスト16)に見事入賞するなど、最近の写真部の躍進には目を見張るものがあります。学校としても総合3位に入り、今後の活躍がますます楽しみになってきました。

また、吹奏楽局は31日に札幌K I T A R Aで行われた「北海道吹奏楽コンクール(全道)」のA編成で「金賞」を受賞しました。これまでも大きな賞を数多くいただいておりますが、年ごとにメンバーも変わり、演奏内容も異なります。その中であって、これだけの実力を維持していくことは並大抵のことではありません。生徒の日頃の熱心な努力の賜であります。